

## 京都市動物園・京都大学野生動物研究センター連携5周年記念イベント 「野生動物学のすすめ」実施報告

京都市では、京都大学と「野生動物の保全に関する教育・研究を行う連携協定」を平成20年4月に締結し、京都市動物園と京都大学野生動物研究センター（WRC）と協働で、野生動物の保全と共生に向けた様々な研究や取組を行っている。協定締結から5周年を記念して、「調査・研究の場」としての京都市動物園の取組を広く紹介するため、「野生動物学のすすめ」をテーマにイベントを企画し、参加者を募集した。

当日のプログラムは以下の通り。以降に、個別のイベントの報告を載せた。

---

日時 2013.04.20-13.04.21

主催：京都市動物園，京都大学野生動物研究センター

参加費：無料（別途，入園料が必要。）

イベント内容

### ● 体験型学習

#### (1) コンポストを活用した野菜作りに挑戦しよう

日時：平成25年4月20日（土）午前9時30分～午前11時30分まで

対象：小学生以上

場所：動物園カモシカ苑

募集人数：20人

申込方法（先着順）

ア 応募方法 いつでもコール（電話 075-661-3755・FAX075-213-0286）

イ 必要事項 催し名，参加者の住所，氏名，学年又は年齢，電話番号

ウ 募集期間 平成25年4月1日（月）～4月13日（土）

※小雨決行，雨天中止

※期間内に定員に達しなかったため、追加募集。

#### (2) 動物の声を聞いて・見て・みよう

日時：平成25年4月21日（日）

一部 午前9時30分～午前10時20分まで

二部 午前10時45分～午前11時35分まで

対象：小学生以上

場所：動物園視聴室

定員：一部，二部とも各10名（事前申込要）

講師：杉浦秀樹（京都大学野生動物研究センター准教授）

※申込方法（先着順）

ア 応募方法 いつでもコール（電話 075-661-3755・FAX075-213-0286）

イ 必要事項 催し名，参加者の住所，氏名，学年又は年齢，電話番号

ウ 募集期間 平成 25 年 4 月 1 日（月）～4 月 13 日（土）

※期間内に定員に到達。

(3) フクロウのペリット（未消化物を吐いたもの）を解体してみよう！

日時：平成 25 年 4 月 21 日（日）午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分まで

対象：小学生又は中学生

場所：動物園視聴室

定員：20 名（事前申込要）

※申込方法（先着順）

ア 応募方法 いつでもコール（電話 075-661-3755・FAX075-213-0286）

イ 必要事項 催し名，参加者の住所，氏名，学年又は年齢，電話番号

ウ 募集期間 平成 25 年 4 月 1 日（月）～4 月 13 日（土）

※期間内に定員に達しなかったため、追加募集。

(4) ツシマヤマネコについて楽しく学べるゲーム

日時：平成 25 年 4 月 21 日（日）午後 2 時～午後 3 時まで

対象：小学生以下

場所：動物園カモシカ苑前

定員：30 名

※申込方法（要整理券）

ア 応募方法 当日動物園事務所前に集合（午前 10 時から整理券を配布）

イ 天候条件 小雨決行，雨天中止

## ● 講演

(1) 「アフリカの草原」オープン記念講演

日時：平成 25 年 4 月 20 日（土）午後 1 時 30 分～午後 3 時まで

対象：高校生以上

場所：動物園視聴室

定員：45 名

※申込方法（先着順）

ア 応募方法 いつでもコール（電話 075-661-3755・FAX075-213-0286）

イ 必要事項 催し名，参加者の住所，氏名，年齢

ウ 募集期間 平成 25 年 4 月 1 日（月）～4 月 13 日（土）

※期間内に定員に達しなかったため、当日整理券を配布。

## ● イベント

### (1) 研究発表掲示

時間：午前 9 時～午後 5 時まで

場所：動物園内（動物図書館展示室）

内容：京都市動物園が、平成 24 年度に実施した研究内容及び繁殖の取組みを紹介。

### (2) NPO ブース

時間：午前 10 時～午後 3 時まで

場所：動物園大水禽舎東側広場

内容：動物の保全等に取り組む NPO の活動内容を紹介します。

出 展：ボルネオ保全トラスト，どうぶつたちの病院，ツシマヤマネコを守る会，サンクチュアリ・プロジェクト，市民 ZOO ネットワーク

---

以下に、各イベントについて報告する。

## ● 体験型学習

### (1) コンポストを活用した野菜作りに挑戦しよう

進行：和田晴太郎（研究教育係長）

当日サポート：田中、山下、小林、水野、松岡

事前応募者 2 名（当日キャンセル）、当日応募者（大学生 3 名）で実施した。

内容は以下の通り。

(1) 実習の概要説明（動物図書館視聴室）

(2) 動物園の飼料の説明（調理場）

(3) コンポスト製造機（一次発酵用）の説明

ゾウの糞の計量，糞の投入。

一次発酵済みの肥料の回収，計量。

(4) 2 次発酵済みの肥料を畑に撒き，すき込み。

畝を作って，サツマイモ，トウモロコシの苗を植える。

(5) 看板を描いて，記念撮影。

(6) ゾウ舎に入り，ゾウの餌に説明。

その後にゾウのおやつ（リンゴ）を手渡し（ゾウ班松岡，水野氏のサポート）

所感：

広報、宣伝の不足がすべて。参加した京大の学生にはたいへん好評であった。今後は、広く不特定多数に広報すると同時に、地元の小中学校、団体などに趣旨説明をして参加を促すなどの努力が必要。（田中正之）

手探りの状態でプログラムを作成したため、広報・宣伝も含めてすべて準備不足。しかし、今回の実施を踏まえて改良と工夫を加えることでより良い環境教育プログラムにすることが出来ると感じた。あわせて、学校活動への応用も進めたい。(和田晴太郎)

## 実施の様子



実習の概要説明



調理場での説明



使用するゾウの糞



糞の投入。



1次発酵後の肥料を回収。



2次発酵済みの肥料を使用。



肥料を畑に撒く。



すき込んで、畝を作る。



サツマイモとトウモロコシの苗を植える。



看板を描いて、記念撮影。





ゾウ舎に入って、ゾウの餌について説明。



水野、松岡氏にサポートに入ってもらい、ゾウにおやつをあげて、終了。

---

## (2) 動物の声を聞いて・見て・みよう

日時：平成 25 年 4 月 21 日(日)

講師：杉浦秀樹（京都大学野生動物研究センター・准教授）

当日サポート：伊藤英，田中

1 時間づつ 2 部に分け、各部 10 名で実施した。

一部 午前 9 時 30 分～午前 10 時 20 分

二部 午前 10 時 45 分～午前 11 時 35 分

各部とも、構成は以下の通り。

- (1) 講師紹介。
- (2) 声の性質、ソナグラフの見方の説明
- (3) 園内で録音
- (4) 録音した音をソナグラフに通して解説。
- (5) 質問に答える。

所感：

事前予約締め切りまでに唯一、定員に達した実習であった。他の実習と何が違ったのかを見極める必要あり。参加者は小さなお子さんと保護者という組み合わせがほとんど。人気は主に保護者の関心を引いた結果だと思われる。内容は、杉浦先生の人柄もあり、参加者に優しく、小さな子たちにも好評だった。次回も同様な企画があれば協力してくれるとのこと。次回以降は、もう少し上の年代の子どもが参加できるようなガイドがあればよいだろう。(田中正之)

動物園のスタッフによる開催も検討し、教育プログラムの一つとして実施したい。(和田晴太郎)

#### 実施の様子



園内でフラミンゴの声を録音。



声の性質について解説。



テナガザルのグレートコールを録音





参加者が録った音を分析。

---

(3) フクロウのペリット（未消化物を吐いたもの）を解体してみよう！

日時：平成 25 年 4 月 21 日（日）午後 1 時 30 分～午後 2 時 40 分

場所：動物園視聴室

参加者：21 名

進行：和田晴太郎（研究教育係長）

当日サポート：濱崎、釜鳴、田中

撮影記録：千賀しほ（愛知教育大）

実習の構成は以下の通り。

- (1) ペリットの解説
- (2) ペリットを参加者各人に配布。解体開始。
- (3) 解体して選り分けた骨の同定のための資料配布。
- (4) フクロウについての解説。
- (5) アンケート記入（愛知教育大 千賀の研究資料のため）

所感：

すでに一度、実習として実施しているプログラムであり、解説スライドも含めて完成度は高かった。ただし、参加者の中には小学校低学年もおり、ペリット解体自体は楽しんでいたが、解説や資料の理解は難しそうに見えた。参加者の選別は難しく、あまりに低学年向けにプログラムを作ってしまうと、かえって参加者の不満を誘うおそれもあり、現行内容で継続してみるのがよさそうだ。

個人的に、ボーイスカウトの指導者や保護者に実習参加を薦めたところ、この実習に 9 名の参加があった。このような形での地元の団体、保護者のネットワークを利用すると有効だろう。ただし、参加はあくまで子どもの自発意志によるものなので、狙った実習に組み入れることは難しい。やはり実習内容の広報努力が不可欠だということ。（田中正之）

前回の実施に比べ、進行、時間の配分などは改善できた。ただし、前回あまり問題とならなかった「臭

い」を気にする参加者がおり，対応を考えておく必要がある。

なお，当園ではアカショウビンのペリットも入手できることから，プログラムにさらに幅を持たせることが出来，さらに完成度を高めたい。(和田晴太郎)

実施の様子。



実習の概要説明



ペリットの解体。



解説の様子 1



解説の様子 2

---

(4) ツシマヤマネコについて楽しく学べるゲーム

日時：平成 25 年 4 月 21 日（日）午後 2 時～午後 3 時

対象：小学生以下

場所：動物園カモシカ苑前

参加者：15 名

進行：岡部光太，佐々木智子（動物飼育員）

当日サポート：伊藤英之，松本朱美，大阪コミュニケーションアート専門学校生





当日募集だったが、天候が不順で、来園者がそれほど多くなかったこともあり、参加者が少なかった。また、「屋外では声が届きにくい」「小学生以下では理解力に差がある」「学生の補助がないと厳しい」などの課題が挙げられる。

今後、プログラムを実施・運用していく上では、改善しなければならない課題となった。

(伊藤英之)

## ● 講演

### (1) 「アフリカの草原」オープン記念講演

日時：平成 25 年 4 月 20 日（土）午後 1 時 30 分～午後 3 時

場所：動物園視聴室

参加者：28 名

講演内容

(1) 「タンザニア研修報告」釜鳴宏枝

(2) アフリカの草原への動物の引っ越し「The Road To Africa」岡部光太

当日サポート：伊藤英・田中

所感：

会場は比較的埋まっており、対象を高校生以上としていたこともあり、1 時間半の時間中、参加者はおと



なく聞いていた。質問も比較的良好に出ていた。概ね成功と言えるのではないか。(田中正之)

(写真)



## ● イベント

### (1) 研究発表揭示

時間：午前9時～午後5時

場所：動物園内（動物図書館展示室）

内容：京都市動物園が、平成24年度に実施した研究内容及び繁殖の取組みを紹介した。

所感：

とくに積極的に人の流れを作らなかったこともあり、あまり注目はされなかったが、図書館に来たお客さんで眺めている人は少なからずおり、まったく意味がないわけではなかっただろう。(田中正之)

今回は、コアタイムを設定していなかったが、やはり発表者が直接話せる機会を設けることは必要と感じた。(和田晴太郎)

(写真)



## (2) NPO ブース

時間：午前 10 時～午後 3 時

場所：動物園大水禽舎東側広場

内容：動物の保全等に取り組む NPO の活動内容を紹介した。

出展：ボルネオ保全トラスト，どうぶつたちの病院，ツシマヤマネコを守る会，サンクチュアリ・プロジェクト，市民 ZOO ネットワーク

所感：

土曜日は比較的天候にめぐまれたこともあり、比較的多くの人がブースを訪れたとのことだったが、日曜日は雨上がりで寒く、人の出は低調だったとのことだった。屋外展示なだけに、天候に大きく左右されることが課題。(田中正之)

(写真)

